

○水生生物モニタリング調査結果一覧（阿武隈川河口沖K）

<阿武隈川河口沖K 水質底質採取項目>

項目	一般分析項目		放射性物質分析項目			
	水質	底質	水質 (Cs)	水質 (Sr)	底質 (Cs)	底質 (Sr)
調査地点 K-3	○	○	○	○	○	○

<阿武隈川河口沖K 現場測定項目>

項目	調査緯度・経度		調査日時			水質	底質				その他	
	緯度	経度	日	時刻 (水)	時刻 (泥)	水温 (℃)	泥温 (℃)	性状	色相	混入物	全水深 (m)	透明度 (m)
K-3 (表層)	38. 0458°	140. 9518°	R3. 8. 23	08:42	09:01	24. 5	19. 6	シルト混砂	5Y3/2	貝殻片	20. 4	2. 0
K-3 (下層)				08:20		19. 2						

<阿武隈川河口沖K 一般分析項目・放射性物質分析項目 水質>

項目	調査緯度・経度		調査日時		pH	BOD (mg/L)	COD (mg/L)	DO (mg/L)	電気伝導率 (mS/m)	塩分	TOC (mg/L)	SS (mg/L)	濁度 (度)	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)	Sr-90 (Bq/L)
	緯度	経度	日	時刻												
K-3 (表層)	38. 0458°	140. 9518°	R3. 8. 23	08:42	8. 4	1. 0	4. 1	10. 1	3230	14. 54	1. 6	8	5. 3	N. D. (0. 0014)	0. 0070	—
K-3 (下層)				08:20	7. 9	1. 5	4. 7	4950	33. 44	1. 2	4	3. 5	N. D. (0. 0014)	0. 015	0. 00097	

注) N. D. は、not detected (検出下限値未満) を示し、括弧内の数字は検出下限値を示す。

<阿武隈川河口沖K 一般分析項目・放射性物質分析項目 底質>

項目	調査緯度・経度		調査日時		pH	酸化還元電位 E _{N.H.E} (mV)	含水率 (%)	IL (%)	TOC (mg/g-dry)	土粒子の密度 (g/cm ³)	粒度組成							Cs-134 (Bq/kg-dry)	Cs-137 (Bq/kg-dry)	Sr-90 (Bq/kg-dry)	
	緯度	経度	日	時刻							礫 (2~75mm) (%)	粗砂 (0. 85~2mm) (%)	中砂 (0. 25~0. 85mm) (%)	細砂 (0. 075~0. 25mm) (%)	シルト (0. 005~0. 075mm) (%)	粘土 (0. 005mm未満) (%)	中央粒径 (mm)				最大粒径 (mm)
調査地点 K-3	38. 0458°	140. 9518°	R3. 8. 23	09:01	7. 8	228	31. 9	4. 7	6. 5	2. 661	0. 0	0. 0	0. 5	35. 5	51. 4	12. 6	0. 055	2. 0	5. 7	160	N. D. (0. 13)

注) N. D. は、not detected (検出下限値未満) を示し、括弧内の数字は検出下限値を示す。

<阿武隈川河口沖K 分析項目 水生生物>

地点	採取場所	調査緯度・経度		採取日	門	綱	目	科	学名	和名	個体数	採取重量 (kg-wet)	特記事項			放射性セシウム (Bq/kg-wet)			Sr-90 (Bq/kg-wet)
		緯度	経度										成長段階	消化管内容物	測定部位	計	Cs-134	Cs-137	
阿武隈川河口 周辺海域	阿武隈川河口 前面海域	—	—	R3. 8. 27	脊椎動物	硬骨魚	カサゴ	フサカサゴ	<i>Sebastes cheni</i>	シロメバル	9	1. 1	未成魚	エビ類	内臓除去	N. D.	N. D. (0. 22)	N. D. (0. 22)	—
					脊椎動物	硬骨魚	カサゴ	ホウボウ	<i>Chelidonichthys spinosus</i>	ホウボウ	2	1. 2	成魚	空胃	内臓除去	0. 66	N. D. (0. 32)	0. 66	N. D. (0. 018)
					脊椎動物	硬骨魚	カレイ	ヒラメ	<i>Paralichthys olivaceus</i>	ヒラメ	1	0. 78	成魚	空胃	内臓除去	0. 47	N. D. (0. 35)	0. 47	—
					脊椎動物	硬骨魚	マトウダイ	マトウダイ	<i>Zeus faber</i>	マトウダイ	1	1. 1	成魚	空胃	内臓除去	N. D.	N. D. (0. 33)	N. D. (0. 31)	N. D. (0. 022)

※1：生物は、当該調査水域またはその周辺で採取したものである。

※2：水生生物を複数採取できた場合は、これらを混合して試料とした。

※3：複数種の混合試料においては、最も多く採取できた優占種を、和名に下線で示した。

※4：生物試料は、全個体を測定することを原則とするが、消化器系に残留した未消化の餌料や底泥等は測定しないよう、内臓（胃、腸）の除去が可能な試料については、除去して測定した。

※5：プランクトン（浮遊藻類）とは、湖沼水または海水を40μmのプランクトンネットで濾した残留物を指す。

※6：河床付着物（藻類を含む）とは、石に付着した藻類をブラシ等で掻き落としたものであるが、無機態のシルト・粘土等の微細粒子が含まれることがある。

※7：N. D. は、not detected (検出下限値未満) を示し、括弧内の数字は検出下限値を示す。

※8：放射性物質濃度の数値には計数誤差等が含まれているが、本報においては記載していない。